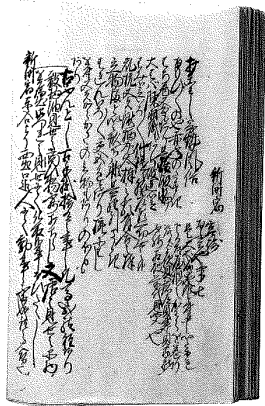


三右衛門日記 (五)



慶応二年六月十八日 新町宿打ちこわしの状況

御同人様御手代
大越佛輔様

當申年三月三日大雪フル
御大老伊井掃部頭様水戸浪人ニ御登城先様田御門
外ニ而狼藉御首を被討候、何分御雪ニ而三尺先
者一切雪ニ而不見由、双方余程之怪我人退死も
多し、直様御片付伊井様御病氣之由、御家老
様御登城与之御義ニ候、右ニ付御國与リ諸士大
勢御屋敷江追々入込、諸大名様方御用意与之下
方風聞専らニ御座候、横濱邊御与力様方并関東
御取締御出役様方御話にて、道案内之もの追御
呼上ケニ而所々御関ヲ立御厳重之御事ニ候

一、まの直段
相場三ツニ成、七月十日之頃
三五分与成八月ニ成二ツ四五分与成ル
但桐生町者勿論也、慶世一統之休ニ成り官方

待望の玉村町誌別巻Ⅶ

三右衛門日記(五)がここに発刊されました。

この度、玉村町では「三右衛門日記(五)」を刊行致しました。三右衛門日記全五巻の完成です。全巻を通じた頁数は四一五五頁、原本の四七〇〇丁にはほぼ匹敵する頁数です。

日記は玉村寄場組合大惣代を二十年間も勤めた渡辺三右衛門の公用私用を兼ねた日記です。行動し記載した地域は玉村宿を中心に、埼玉県北部・桐生・沼田・中之条・富岡をカバーする村々です。

第五巻は文久四年から明治二年に至る六年間の記録で、幕末維新期の日本国内の状況を直接の見聞、又は聞き書きで活き活きと伝えてくれます。

文久四年(元治元年)には玉村八幡宮楼門再建準備、江戸城西丸普請木挽・柚の募集、慶応元年には八幡宮楼門上棟祝い、前橋大渡橋詰茶屋の越後出雲崎生まれの怪力女の話、慶応二年には江戸送り油、並びに菜種調べ、生糸・蚕紙の検査と税とその反対陳情による三右衛門の大惣代免職、その予想が適中して武州秩父からの打ちこわし等、慶応三年には聞き書きで慶喜の將軍宣下と官位授爵、和宮は静寛院宮となる、主上御不豫、殿中簡略、前橋松平氏の所知地下賜、物価高騰、強盗の流行等、慶応四年は玉村宿大火、松平奥方前橋入城、高山郡代保泉村(現境町)へ逃げ込み、鳥羽伏見の戦いと負け人木島本陣へ逃げ帰る。岩倉卿の新町通輿、小栗上野介権田の戦い、仏教色神名の改称、中

も鉄砲・剣術百姓動員反対の上州一揆打ちこわしが圧巻です。

明治二年は岩鼻異役人豪遊の密々調べ、玉村宿飯売下女名調べ、御一新諸改正、菩提寺住職の葬儀、官位名改正姓名名等です。

これで全巻完成、解読を始めてから十八年、幕末地方史の詳しい記録が認められ、近世文書として最初の県指定文化財となりました。是非多くの方々のお購読をお願いします。

(玉村町刊行会)

目次

慶応元年八月二十八日八幡宮仁王門上棟祝い・慶応二年六月十八日新町宿打ちこわしの状況	慶応二年十一月十八日官軍玉村宿通行之図・慶応四年一月十一日玉村宿大火・慶応四年四月一日官軍新町宿通行・菊の御紋は赤字に白・明治二年二月十四日御一新に付き目安箱・明治二年五月二十九日村内差違一家の取極書・明治二年九月二十一日改名布告	序	「三右衛門日記」刊行完結に寄せて	玉村町誌編さん委員長 玉村町長 井田金七 群馬県文化財保護審議会会長 近藤義雄	
凡例	慶応元年	慶応四年(明治元年)	元治二年	明治二年	あとがき
慶応二年	一〇五	四四一	一七三	五九三	七二三
慶応三年	二二七				



慶応二年十一月十八日 官軍玉村宿通行之図

装丁
A5版
上製本
貼箱入り
総頁……約七三〇頁
口絵……八頁